

高校生の 大学受験実態調査

「新課程入試初年度」の受験生はどう動いたか

CONTENTS

- 抜粋版** 1 進路意識の最新トレンド p. 1
入学した大学を受験した理由／入学を決めた理由
- 2 志望学部、志望校受験の決定時期
志望する学部の決定時期／入学した大学の受験決定時期
- 3 大学情報、入試情報収集の実態
入学した大学の認知経路／オープンキャンパスの参加状況と時期／相談相手／情報収集に活用したツール
- 抜粋版** 4 「新課程入試初年度」の共通テスト受験と対策の傾向 p. 2
共通テストの受験科目／共通テストの過去問対策／共通テストの過去問を最初に解いた時期
- 抜粋版** 5 「新課程入試初年度」の志望校対策の傾向と志望度 p. 4
入学を決めた大学の過去問を最初に解いた時期／入学を決めた大学の志望順位
- 6 年内入試の受験実態
年内入試の対策／「総合的な探究の時間」の利用
- 抜粋版** 7 英語外部検定利用入試の実態 p. 5
入試に利用した外部検定／外検利用ができると知った時期と入試に利用した級・スコアの取得時期
- 8 受験対策に活用したデジタルコンテンツ
学習動画・学習アプリの利用状況／学習動画の利用目的／有料アプリ、Webサービスの利用

調査概要

調査名：旺文社「受験生の大学合格に向けた学習・進路活動調査 2025年度」

調査目的：受験生の大学合格に向けた学習・進路活動の実態把握

調査時期：2024年12月～2025年6月

調査方法：インターネット調査

調査対象：2025年春に大学に合格・進学した大学1年生

有効回答数：4,381

※ 一部の設問（単一回答集計）では、四捨五入の関係で計算上の合計が100%とならない場合があります。また、一部の設問では他の設問の回答状況に応じて回答を集計しているため、総回答者数が4,381名より少ない場合があります。なお、「SA」は単一回答、「MA」は複数回答の設問を表しています。

※ レポート内で取り上げている「2024年度調査」の一部については、『大学1年生が回答！ 入学の決め手は7割が「学べる内容」、6割が過去問を「高3の12月まで」に解き、外部検定は英検®利用が大多数も「受験校で使えることを知ったのは高3」とやや遅めの人が36.6%という結果に』を参照してください。（<https://www.obunsha.co.jp/news/detail/908>）

※ 英検®は、公益財団法人日本英語検定協会の登録商標です。

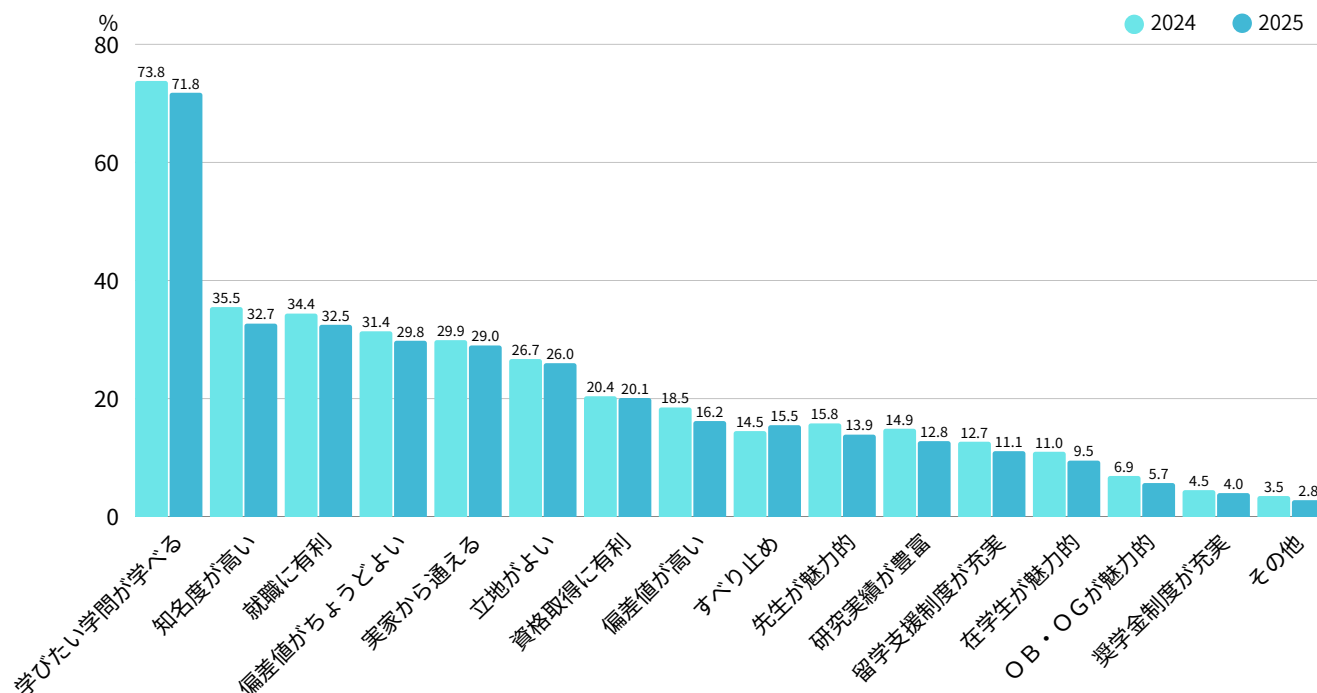
※ このコンテンツは、公益財団法人日本英語検定協会の承認や推奨、その他の検討を受けたものではありません。

1 進路意識の最新トレンド

「学びたい学問が学べる」が、入学した大学の受験理由、入学の決定期理由のいずれでもトップ。入学の決定期理由としては「就職に有利」「実家から通える」もポイントに。

入学した大学を受験した理由

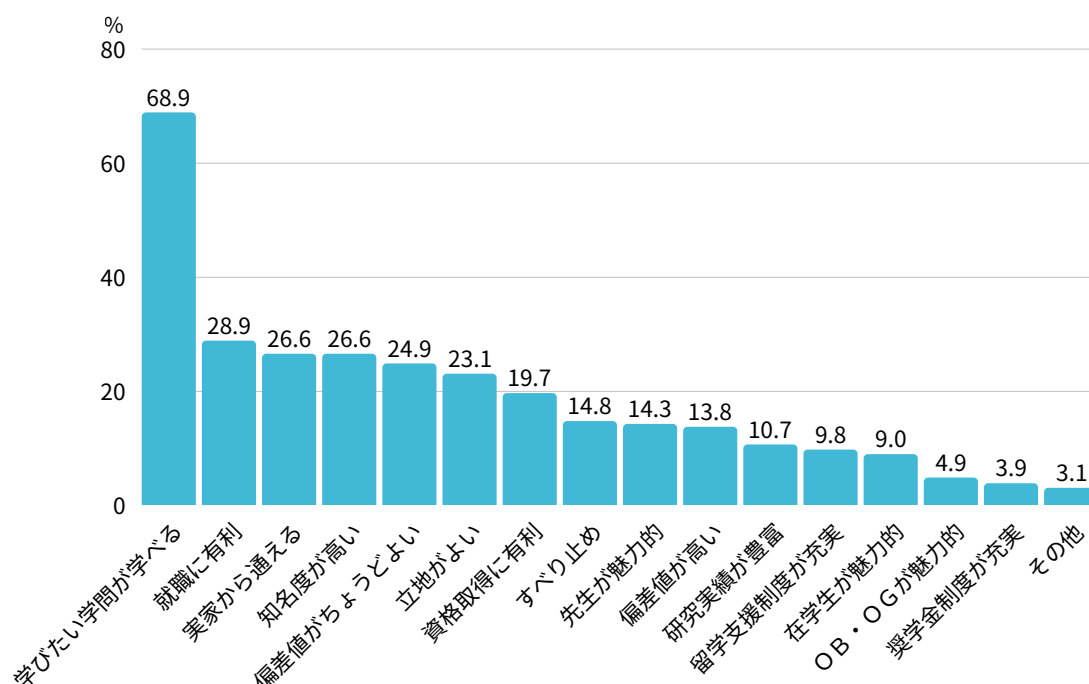
- 受験した理由の第1位は「学びたい学問が学べる（71.8%）」で昨年調査と同じ結果がトップに。次いで「知名度が高い（32.7%）」、「就職に有利（32.5%）」となっており、こちらも昨年と同じ傾向となった。



図表1-1 入学を決めた大学を受験した理由 (MA) (n=4,381)

入学を決めた理由

- 入学を決めた理由の第1位は「学びたい学問が学べる（68.9%）」、次いで「就職に有利（28.9%）」、「実家から通える（26.6%）」、「知名度が高い（同）」。



図表1-2 入学を決めた大学への入学を決めた理由 (MA) (n=4,381)

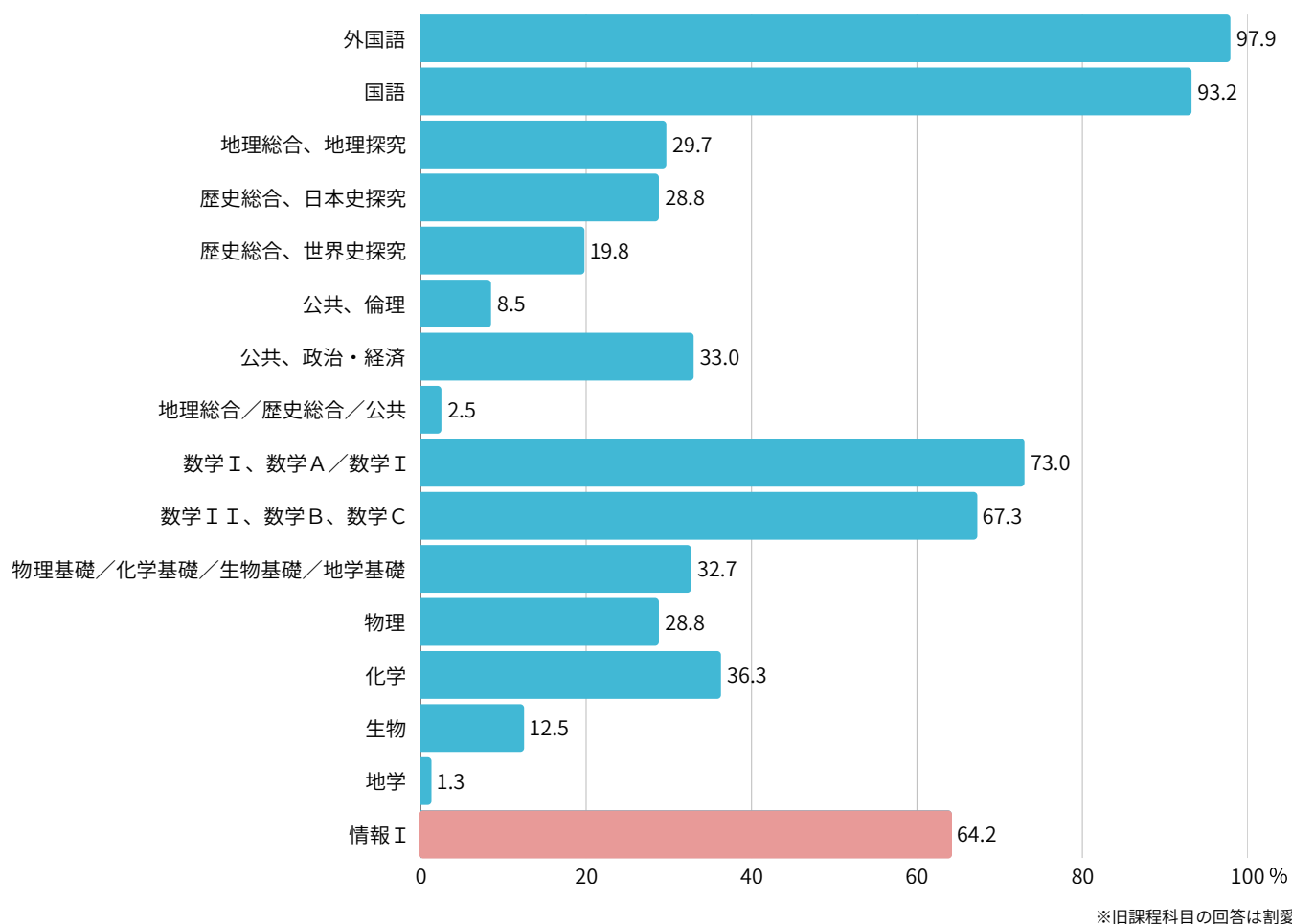
4 「新課程入試初年度」の共通テスト受験と対策の傾向

「新課程入試初年度」となった2025年度共通テストにおける「情報Ⅰ」の受験率は6割。共通テストの過去問演習の時期がやや早期化している傾向が見られる。

共通テストの受験科目

- 「新課程入試初年度」となった2025年度共通テストで初めて出題された「情報Ⅰ」の受験率は64.2%。本調査の回答者の過半数が「情報Ⅰ」を含む形で受験した。なお、2025年度大学入学共通テストの実施結果（本試験）での「情報Ⅰ」の受験率は60.6%（本試験受験者：461,505名、「情報Ⅰ」受験者：279,718名）（※）。

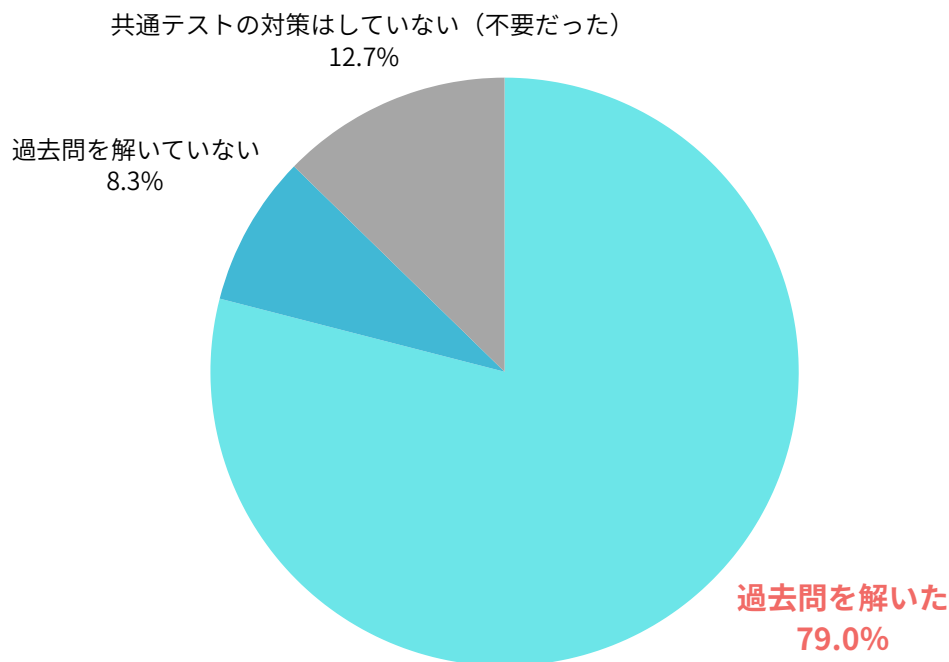
※大学入試センター「令和7年度大学入学共通テスト実施結果の概要」



図表4-1 受験した共通テストの科目（MA）（n=3,572）

共通テストの過去問対策

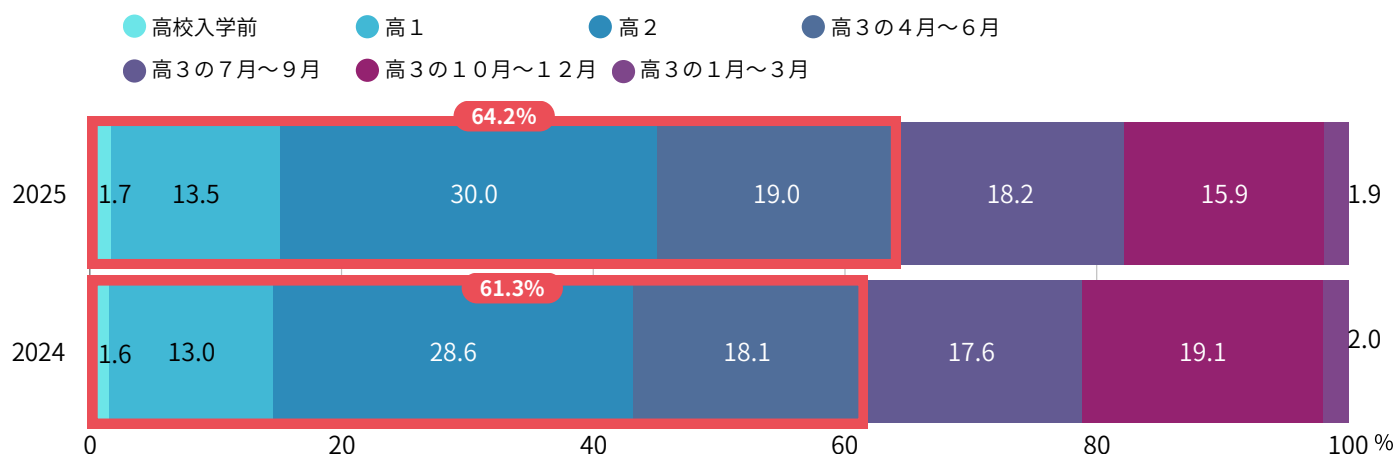
- 共通テストの過去問対策は、79.0%が「過去問を解いた」と回答。これは「共通テストの対策はしていない（不要だった）」を除く回答者（すなわち、共通テスト対策が必要だった受験者：87.3%）の約9割にあたる。



図表4-2 共通テストの過去問を解いたか（SA）（n=4,381）

共通テストの過去問を最初に解いた時期

- 共通テストの過去問を最初に解いた時期を「高3の6月」までと回答した受験生は64.2%。これは、昨年調査（61.3%）と比較してやや増加傾向。詳細な時期を見ると「高3の10月～12月」が減少し、全体的に早期化が進んでいる。



図表4-3 共通テストの過去問を最初に解いた時期（SA）（n=3,462）

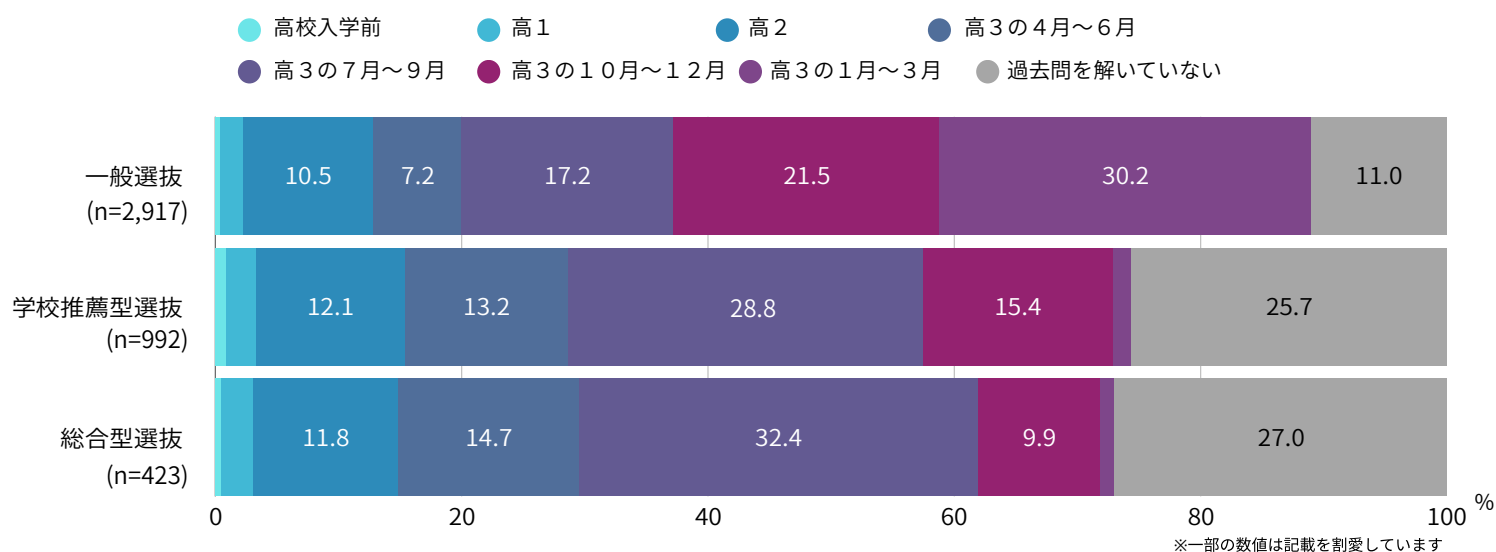
5 「新課程入試初年度」の志望校対策の傾向と志望度

入学した大学の過去問対策時期は、受験した入試方式に影響を受ける。一般選抜は「高3の1月～3月」がもっとも多いのに対し、学校推薦型選抜・総合型選抜（年内入試）は「高3の7月～9月」がもっとも多い。

志望順位については、過半数が「第1志望校」に進学した。

入学を決めた大学の過去問を最初に解いた時期

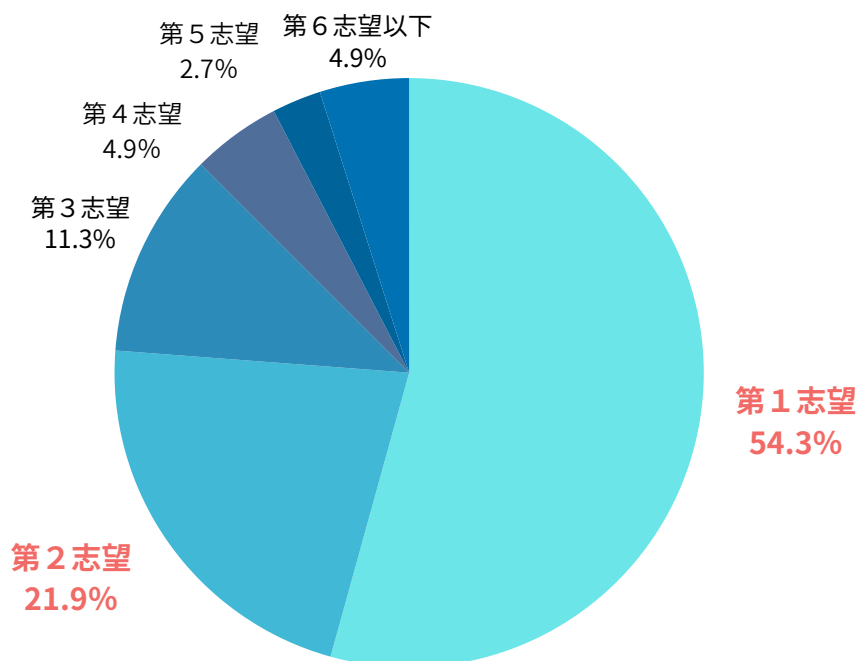
- 入学を決めた大学の過去問を最初に解いた時期としてもっとも多いのが、一般選抜「高3の1月～3月（30.2%）」、学校推薦型選抜「高3の7月～9月（28.8%）」、総合型選抜「高3の7月～9月（32.4%）」となり、入試方式の影響を受けていることがわかる。なお、一般選抜では約6割（58.7%）が高3の12月までに最初に過去問に取り組んでいることもわかる。



図表5-1 入学を決めた大学の過去問を最初に解いた時期 (SA)

入学を決めた大学の志望順位

- 入学を決めた大学の志望順位は、「第1志望」が54.3%と過半数を占める結果となった。「第2志望（21.9%）」と合わせ、76.2%が第2志望までの大学に進学したことがわかる。



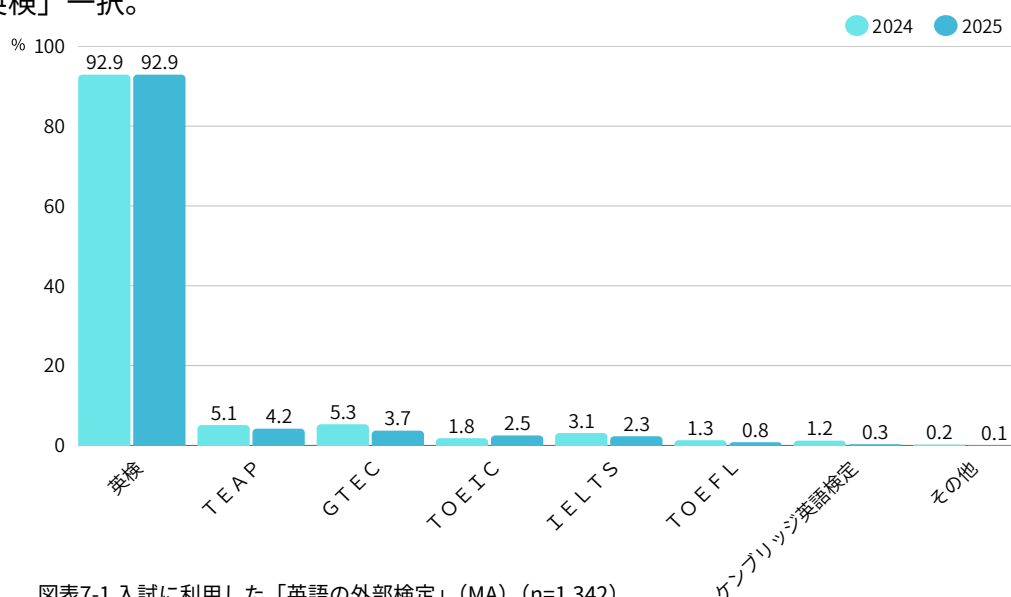
図表5-2 入学を決めた大学の志望順位 (SA) (n=4,381)

7 英語外部検定利用入試の実態

英語の外部検定利用入試は、昨年に続き「英検®」の利用が圧倒的多数。受験大学で外部検定を使えることを知ったのが「高2の9月以前」で半数以上。実際に利用する級・スコアの取得時期のピークは高2の冬～高3の夏ではあるが、高3の秋まで外部検定の受験が続く。

入試に利用した外部検定

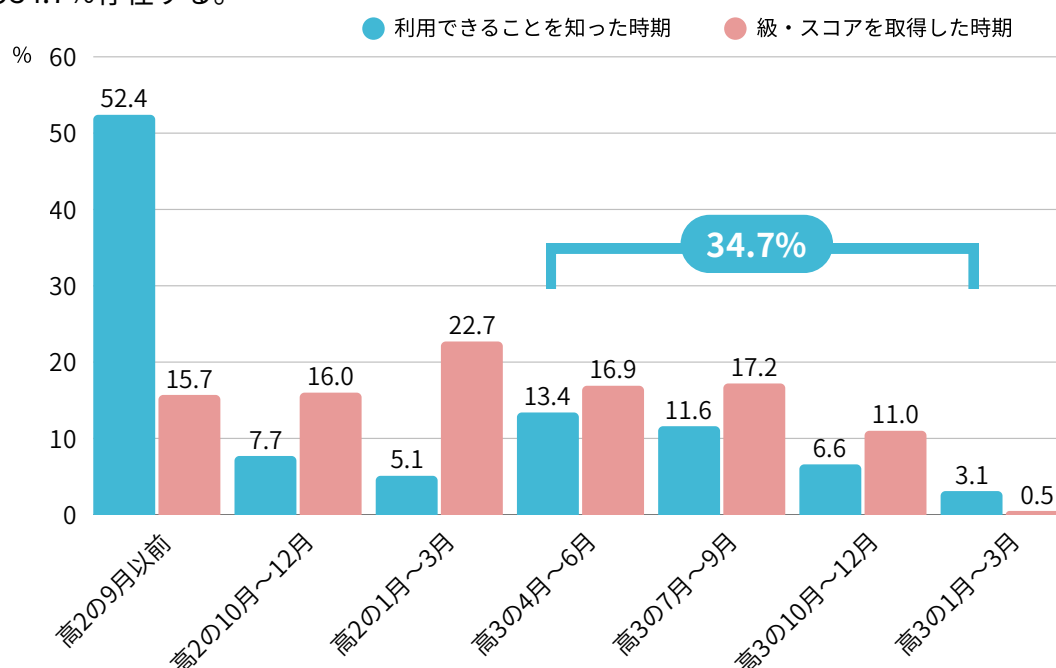
- 入試に利用した外部検定は「英検」が92.9%で、昨年に続き9割超と、受験生が実際に利用する外部検定はほぼ「英検」一択。



図表7-1 入試に利用した「英語の外部検定」(MA) (n=1,342)

外検利用ができると知った時期と入試に利用した級・スコアの取得時期

- 半数以上が「高2の9月以前」に、志望校で英語外部検定試験が利用できると認知している一方で、実際に入試に利用した級やスコアを取得したのは「高2の1月～3月」がもっとも多く(22.7%)、次いで「高3の7月～9月(17.2%)」となっている。
- 一方、受験した大学の入試に英語外部検定試験が利用できると知った時期が「高3になってから」という受験生も34.7%存在する。



図表7-2 受験した大学の入試に外部検定が利用できると「知った時期」と利用した外部検定(級・スコア)の「取得時期」(SA) (n=1,342)

ゆ く 人 だ。
変 え て
学 ぶ 人 は、

目の前にある問題はもちろん、
人生の問いや、社会の課題を自ら見つけ、
挑み続けるために、人は学ぶ。
「学び」で、少しずつ世界は変えてゆける。
いつでも、どこでも、誰でも、
学ぶことができる世の中へ。
私たちは、学ぶ人をずっと応援し続けます。



株式会社 旺文社

<https://www.obunsha.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社旺文社 広報担当
TEL : 03-3266-6400
E-mail : pr@obunsha.co.jp

2025.9